

2024 年 5 月 31 日

子ども学科 樋口 和美

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2023 年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養／専門／教職)	科目名	種別 (必修／選択)	開講時期	受講者数
教養	色と形で美を探る	選択	後期	15 名
専門	幼児と表現	必修	後期	39 名
専門	図画工作	必修	前期	32 名
専門	造形表現	必修	前期	39 名
専門	保育内容（表現）	必修	後期	32 名
専門	ゼミナール 1	必修	前期	5 名
専門	ゼミナール 2	必修	後期	5 名
専門	保育基礎 1	必修	前期	32 名
専門	保育基礎 2	必修	後期	32 名

2. 教育の理念

領域「表現」の目標は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな完成や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことです。本学の保育士養成における美術・造形表現の教育は保育者として、表現する子どもの心が自由であること「領域」で示されているように「自分なりに」表現できることがその喜びを支えることを知り、子どもたちが「表現するこ

と」を楽しむような環境を構成することや達成感や充実感を得ることができるよう、導き、支えることの大切さを授業の中で実技・演習を通して身に付けていくことです。授業でも常にそのことを学生に伝えられるように心がけています。

3. 教育の方法

実際に素材に出会って、手で触ったり手を加えてみたりして感じる五感の感覚や、道具を使用することにより変化する素材と自分が「作りたいもの」を実現していく表現の喜びを、製作を通して体験するように計画しています。新しい素材を使う時には具体的に解説をして、できる限り製作過程や作品の見本を用意して目で見て分かるように工夫しています。

製作に入るときには、簡単な製作の準備や活動計画をラフスケッチに残して、製作中も時々確認するように促しています。

また、表現の授業では自分や友達作品をじっくりと「見る」という時間も大切にしており、授業のあらゆる場面でお互いに鑑賞し合ったり、コメントを伝え合ったりしています。また作品がさらに魅力的に演出できるように展示したり、写真に残したりすることも授業の中で扱っています。

造形表現・保育内容（表現）での長期に渡る製作の最後にはワークシートにより、振り返りの時間をもつようにしています。

4. 教育の成果

- ①授業中はできるだけ写真や動画などを用いて視覚的な体験ができる授業を心がけました。また学生からの写真や動画を全員で鑑賞できる場を設けてコメントしたりしてお互いに成果を共有しました。
- ②製作の構想段階でワークシートに簡単な製作の準備や活動の計画をスケッチブックにかいて、時々確認するように促していましたが、視覚化することにより、良い作品を作ろうとする自分との向き合う姿勢が見られました。また途中で大きく変更して1から努力する姿も見られました。
- ③製作することが「楽しい」と感じられる学生が多かったので授業における題材選択は概ねよかったと考えています。保育者として子どもたちが造形表現を喜びに感じられるための導きや支えとなることを常に意識することをより一層伝えていきたいと思っています。
- ④「製作に没頭する時間が楽しく充実していた」という意見がみられました。製作の時間を十分に確保するために導入部分や板書の工夫をしています。

5. 今後の目標

各自の自己目標を明確にして1コマの時間に学習する内容を導入時にしっかりと把握してもらうことが大事だと考えています。製作に時間を十分に取ったつもりでしたが学生が既存のキャラクター製作に偏る傾向が否めないなので作品の構想段階で講義の時間も十分に取り入れて美学的な学びの時間を増やす必要性を感じます。

6. 根拠資料

【色と形で美を探る】

- シラバス
- 授業資料（PDF1）
- 授業評価アンケート結果（PDF2）
- 授業改善計画書

年度当初から ICT の活用を積極的に取り入れました。美学の授業が進んでからは、主体的な学びを促し、iPad を利用して取材に出かけ、写真の作品づくりを授業のまとめに取り入れました。受講者間の共有の時間を設けてお互いの価値観を認め合い、振り返りによって理解度をはかることができました。

【幼児と表現】

- シラバス（PDF3）
- 授業資料（PDF4 ）
- 授業評価アンケート結果（PDF5 ）
- 授業改善計画書

音楽担当の専任教師とともに授業内容を考えて分担しています。オリエンテーションと第 1 回目において保育内容（表現）における学びの復習を行いました。製作による表現に加えて発表や読みきかせの機会を多く設けました。4 回の実習後の学生たちの成長には驚

かされます。多くの学生がその場に合わせて雰囲気をつくり、観客を引き込むような呼びかけができるようになっていきます。

- （おもな活動内容）

- ・自作の「絵本」の読み聞かせの工夫や幼児の発達に応じた配慮、呼びかけの工夫。
- ・年齢に応じたおもちゃ製作・幼稚園へのプレゼント製作、フィードバックと協力園への報告。
- ・絵本の読み聞かせ発表会、感想と友達の作品と発表へのコメントとその共有。

【図画工作】

- シラバス
- 授業資料（PDF6）
- 授業評価アンケート結果（PDF7）
- 授業改善計画書

授業評価アンケートを見ると各授業での演習では学生は喜びをもって取り組んでいたように思います。将来現場での取り組みについてイメージをする学生が多い事が分かりました。

【造形表現】

- シラバス
- 授業資料（PDF8）
- 授業評価アンケート結果（PDF9）
- 授業改善計画書

各時間の目標を明確に示して分かりやすく完成までの工程を視覚化しました。受講者全員が7月末までに自作の物語とハードカバーの表紙の絵本を作り上げました。

- その他
- ・（各製作工程が分かりやすい参考作品を用意しました。授業内容を分かりやすく解説しました。）

【保育内容（表現）】

- シラバス
- 授業資料（PDF10）
- 授業評価アンケート結果（PDF11）
- 授業改善計画書

現場の子どもたちの造形表現の様子をもっと具体的に感じてほしいので、映像などをもっと見せたいと思っています。使う素材について、種類や道具など明確に説明をする必要性を感じています。学園祭で作品展示を行いました。

- その他
- （おもな活動内容）個人・グループで演出した製作動画の鑑賞会。

【ゼミナール１】

- シラバス（PDF12 ）
- 授業資料（PDF13 ）
- 授業評価アンケート結果（PDF14 ）
- 授業改善計画書

・製作が研究につながるので、製作計画段階がポイントとなっています。ゼミのメンバーが助け合って情報交換をしていて保育現場で大切とされるコミュニケーション力育成にもつながりました。来年度はゼミ全体での共同作業や意見交換など全体的な活動にも重きをおきたいと考えています。

- おもな活動内容

・学内展示作品製作展に向けて計画・製作・研究レポートのテーマ決め。

自分で決めた研究テーマに沿って資料収集と製作実践とそのまとめ。研究成果中間発表。

【ゼミナール２】

- シラバス
- 授業資料（PDF15 ）
- 授業評価アンケート結果（PDF16 ）
- 授業改善計画書

学内でのゼミ展覧会を開催してそれまでに製作した作品を披露しました。

研究テーマについてそれぞれが明確なテーマを決めて素材研究と製作研究を進めました。

- おもな活動内容
 - ・ゼミ製作展（学内展示）。
 - ・レポート作成（プレゼンテーション準備・発表会全員発表者として参加）。

【保育基礎1】

- シラバス
- 授業資料（PDF17）
- 授業評価アンケート結果（PDF18）
- 授業改善計画書

授業担当した「感性と表現」についての授業では全員が作品を時間内に美しく仕上げました。

- おもな活動内容【樋口担当授業】
 - ・感性を刺激する表現活動。
 - ・季節感を大切にする製作と展示について。

【保育基礎2】

- シラバス

- 授業資料（PDF19 ）
- 授業評価アンケート結果（PDF20 ）
- 授業改善計画書

・学生からのコメントで保育について学べた。よい経験ができた。という意見が多く見られたので、毎回学科の教員で工夫しながら授業実施していることがこれらの意見につながっていると思いました。

- おもな活動内容

・グループ研究活動では学生は短大周辺の野生動物についての情報収集をしました。実際に学生が撮影した写真や動画をつかってポスターを製作したり、インタビューした内容等をまとめていました。